

平成最後の互和讃会 2018

平成30年12月20～21日

肌寒い雨模様の12月20日、関東からの2人を含めて12人が今日宿泊する会員制リゾートホテル東急ハーヴェストクラブの送迎バスに京都駅から乗車した。

今回の互和讃会はいつもの観光、見学等を省略し、ホテルでの夕食宴会そして宿泊という通常のプランである。先に着いて待っていてくれた人や後から到着した人を含め計19人(奥方4人)で、隣接するしょうざんリゾート京都にあるチャイニーズレストラン楼蘭で食事を摂った。チョッと変わったスタイルで、円卓を取り囲んで食事をするのはいわゆる中華風ではあるが、円卓には料理を乗せず個人個人に料理を配る方式でフカひれスープ以外は洋式の中華料理であった。最初に先に亡くなった旧友13人を偲んで黙祷し食事をスタートした。ビールやワインを飲みながら食事の途中から近況報告。内容は殆どが自分の健康についてで、それぞれに健康に留意した生活を送っている様子が伺えた。もう一つは趣味を生かして残りの人生を如何に楽しく生きるかを実践している友人達の話もあった。

宴会も終了し、例により一部屋に全員が集まり幹事に準備して貰ったビールや日本酒そしてつまみで、又その上にそれぞれが持参したアルコール類(日本酒、焼酎、ウィスキーやブランデー)と十分な酒で二次会。

我々のクラスは32人でその内13人が既に他界、残っているもの19人とだんだん寂しくなっており、このクラス会もいつまで続けられるかなど話も以前よりは勢いが無くなった様に思った。ただその中でも趣味を楽しみながら残りの人生を有意義に過ごしている友人達も多く、その中から先ず三崎君が長年学習しているフルートで色んなジャンルの曲を披露してくれた。又彼の演奏会のビデオも視聴した。なかなかのものであった。



全員で「ボケます小唄」を歌う

三崎君のフルート演奏



次は学生時代から続けていて現在も大学OB会でも活躍中とのことであるが、謡曲を岩坪君が披露してくれた。演目は「海士 玉の段」。さすがに謡曲独特の節回し、声の大きさ、響きなど我々凡人には真似他にも謡曲を続けている友人が2、3人いるとのことである。



岩坪君の謡曲

最後は新雪を滑る川崎君のビデオ鑑賞である。腰までありそうな新雪を見事に滑っていくのは川崎君本人であるが、それを撮影、ビデオの監修はプロの人だそうである。夏はゴルフ、冬はスキーを今でも実践しているさすが川崎君である。

真夜中まで飲み、喋り合い酔いも手伝って爆睡した。

早朝食事前に大浴場で朝風呂、ビュッフェスタイルの朝食を摂った。自家用車、タクシーそして残りはホテル送迎バスで京都駅へとそれぞれに帰宅の途に、平成最後の互和讃会は終了した。



レストランでの集合写真

後列左から 宮脇 池田 中西 阪口 川崎 山中 宮崎 三崎 福西
柴田 岩坪 奥山 斉藤
前列左から 筆者 高井 山中夫人 泉夫人 高井夫人 岩坪夫人

以上

(色染昭37年卒 山崎 治忠 記)